

ベストクラス選定理由書

作成者：E 班（掛川 淳一，宮本 悠平，伊藤 萌，東 豊，中野 友子）

科目名称：円滑な学級経営のための力量形成		（担当教員名：山中 一英，高尾 一二三）
課程：学部・大学院（修士・ 専門職 ）	開講時期：前期・ 後期	
授業形態：講義・演習	授業規模：9人	
インタビュー対象教員名：山中 一英 （実施日時：8月3日（木）15:40～16:20；実施場所：総合研究棟3階小会議室）		
インタビュー対象受講者名：諏佐 利江子，藤井 圭吾（生徒指導実践開発コース） （実施日時：8月3日（木）15:00～15:40；実施場所：総合研究棟3階小会議室）		
選定理由		
<p>インタビューに基づき、本授業の特徴を以下のようにまとめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員と受講生の知識・経験を資源とした、目標を共有する学びの共同体として授業が構築されている現職，ストレート院生混成のグループに基づくワークショップを中心とした授業とすることで，(a) 現職院生の経験に基づき構築されたアプローチ・メソッドについてストレート院生と共有がなされること，(b) 現職院生間では地域，学校，教員間で異なる多様なアプローチ・メソッドについて共有するきっかけ・機会を得ること，(c) 教員からの理論面からの知識の提供に基づき，現職院生は暗黙的になってしまっている実践の経験について言語化するための支援を得ること，以上により，(d) ストレート院生はイメージを構築・形成することを可能としている。結果として，授業全体を通して，受講生は自身の考えを深めていくことができる。また，個別性が高く，複雑なシステムとなる学級，そのため最善の方法があるわけではない「学級経営」について，教員のもつ知識のみでは授業を構成するに必要十分ではなく，そのため現職院生の実践の経験も学びの資源として捉え，時に，授業を主導する役割が受講生に移ることもあり，本授業における教員—受講生間の関係性は，従来の上下なものとは異なるものとなっている。 2. 学級経営について探求していくための心的態度形成も同時に達成している 得てして「最善の方法」があると考え，それを探し悩んでしまう現職院生にとって，教員は，「学級経営」には最善の方法があるわけではないことに気づかせたり，一方で，彼（女）らの実践により構築されつつあるアプローチ・メソッドに対する信念を揺らがせたりすることにより，「学級経営」が現場において問い続け，考え続けるべきテーマであることに気づかせる。そのため本授業は，現職院生には，自身の知識・経験，さらには教職の意義や教員としてのキャリア形成について再考させるきっかけ・機会を提供している。ストレート院生には，授業時間中や事後学修において，現職院生の，悩みや葛藤までも含めた思考のプロセスを共有させることで，学級経営に対するイメージを構築・形成させていくようにしている。 <p>1.および2.により，教員—受講生間での授業意図の共有がなされており，教員と受講生で作上げていく授業となっているため，受講生の主体性が高まり，受講生の授業への参画度も高くなっているものとする。授業評価における点数の高さ（平均 4.5），および自由記述の内容，およびインタビュー内容を勘案し，本授業はベストクラスとして適切であるとする。</p>		